

④6 絨織物技術支援センター拠点整備事業

受賞機関 栃木県 県土整備部 建築課

キーワード 結城紬、田園風景に調和、伝統的な建築技術

全建賞審査委員会の評価ポイント

伝統的な建築技術を採用した絨織物技術支援センターの整備。ユネスコ無形文化財・国指定重要無形文化財である結城紬の技術を受け継ぐ拠点として地域活性化に寄与しつつ、後継技術者の育成に寄与するために、様々な伝統的な建築技術を積極的に採用している点が評価された。

1. はじめに

絨織物技術支援センターは、ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形文化財である結城紬織物の産業振興・発展を支援する拠点として、後継者育成、技術相談、各種試験、新商品開発及び生産者への共同作業場の提供などを行う施設である。

主に伝習生・研究生への機織りや拵くりなどの技術指導、結城紬の原料となる手つむぎ糸の講習会開催など、後継者育成等を行っている。また、結城紬に使用する道具や、結城紬の歴史や製作工程を説明するパネル等を展示し、機織りの様子の見学や、糸つむぎ体験などを行うことができ、一般県民の方も結城紬について学ぶことができる。

2. 事業の概要

結城紬の一貫生産拠点としての機能強化と既存施設の老朽化のため、内閣府の地方創生拠点整備交付金を活用して建て替えを行った。

(延床面積：961.38㎡ 構造・規模：木造平屋)

伝統ある結城紬の技術を伝え、次世代へ受け継ぐ拠点となる建物にふさわしく、地区周辺の環境に調和したデザインをコンセプトとして、建物ボリュームを分節させた大小の切妻屋根の外観により田園風景に調和させるように配慮し、古くからある建築技術を採用した。



分節させた切妻屋根の外観

構造については主に栃木県産出の杉材を使用し、ロビー・展示室は化粧垂木による架構、会議室はトラスによる架構として構造材を現しとした。

材料選定においては栃木県産材を積極的に取り入れ、ロビー・展示室とエントランスの壁を大谷石張りとし、トイレ洗面器を益子焼とした。

3. 事業の成果

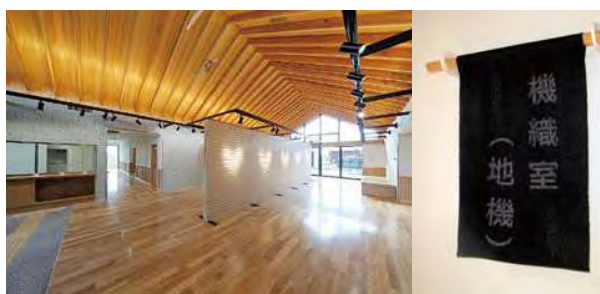
○後継技術者の育成について

公共建築事業においても伝統的な建築技術を採用し、瓦や左官職人が活躍でき、後継技術者の育成となるよう、屋根は腰葺き（日本瓦と金属板）、外壁は漆喰（一部焼杉張り）とした。

また、絨織物技術支援センター及び窯業技術支援センターで、それぞれ結城紬の室名サイン、外構門壁部分に益子焼の片名板を製作するなど、栃木県の伝統技術を建物に取り入れた。

○地域の活性化について

栃木県小山市が手つむぎ糸などの原料作りを支える後継者育成の拠点となる「桑・蚕・繭・真綿かけ・糸つむぎのさと」を令和元年に整備し、本県が絨織物技術支援センターを令和2年に整備したことで、結城紬の生産地域の活性化に寄与する拠点を整備することができた。



ロビー・展示室と結城紬の室名サイン

4. おわりに

新施設では令和2年4月に業務を開始し、各種研修等の実施や見学者の受け入れを行っている。この建物が今後ますます伝統工芸である結城紬の産業振興・発展を支援する拠点として活用され、結城紬の技術が次世代へ継承されることを期待する。